

外観パース



模型

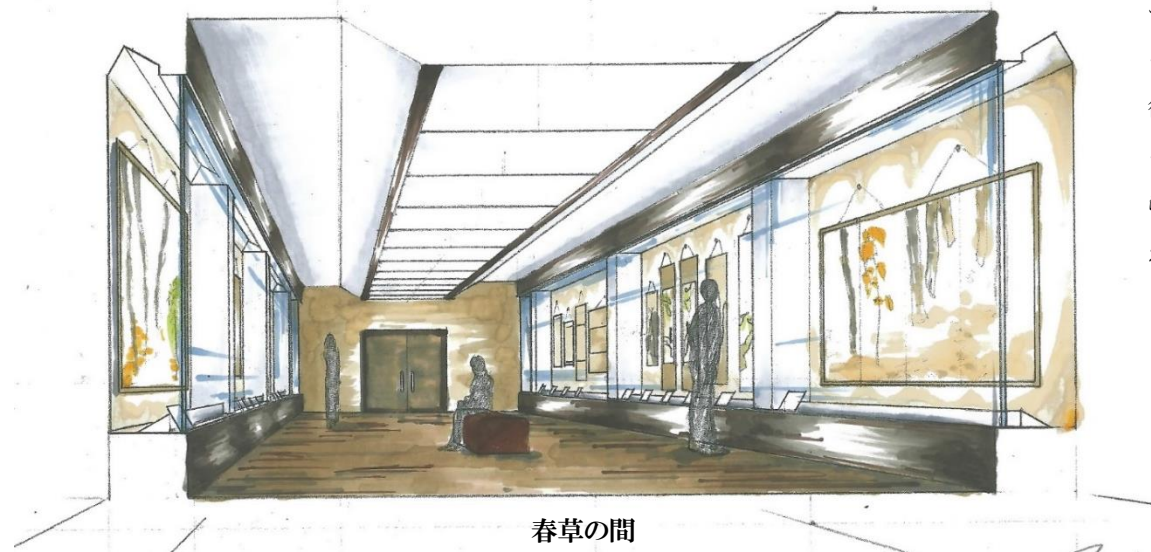
■外部

・RCの躯体の外壁を「外断熱」として、ブルー系の土塗壁で仕上げた外観とし、春草の「先進性」を表現した建物とした。

・建物の高さは約16mの4階建てとなる。マンションの5階建てに相当する高さがあり、地域のランドマーク・シンボルとなる。この地区では高い建築物である。

・「光のプロムナード」を通り、階段を上ると、収蔵庫上の屋上に上られ、隣接する「春草公園」・飯田市街地が一望できる。

・もう一方の「屋上庭園」からは、「風越山」・「伊那谷」・「南アルプス」を望むことができ、自分たちの暮らす地域を、視覚的に把握することが出来る。これにより、地区への愛着が増すことにもつながると考えた。



春草の間

■内部

・観光客を呼び込むための施設ではなく、「日々ここに暮らす、地域住民のための施設」をコンセプトとしている。そのために、美術館の機能だけではなく、地域の人々の「集いの場となる空間」としての機能、仕掛けを設けた。

・「春草の間」は春草作品をはじめとした、日本画が展示されるため、人工照明のみとし、内装は落ち着いた色のあるモダンな空間としてある。

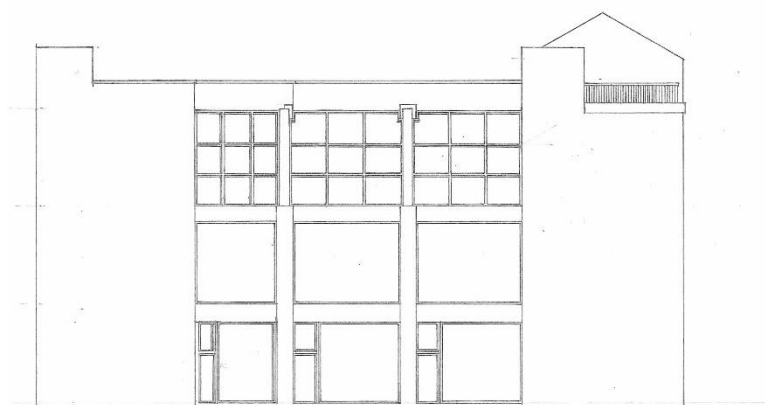
・「市民ギャラリー」は、「春草の間」と対照的な、開放された空間とし、1階の「市民ギャラリー」と共に市民の作品が展示される。吹抜けにより、1階の「市民ギャラリー」まで空間が共有されている。

・2階に「休憩スペース」・「喫茶コーナー」を設けることで、美術に関心の無い市民も訪れる場を設け、また、吹抜けにより、明るい、開放的な空間とした。

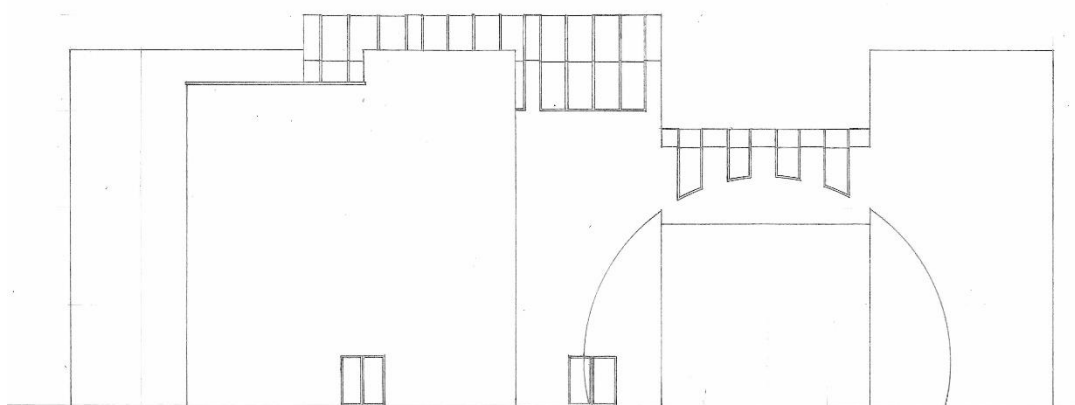
・1階・3階の「市民ギャラリー」には、市民・子ども達の作品を展示するだけでなく、地域のイベントにも使用できる場となっている。



市民ギャラリー・休憩コーナー



北西立面図



北東立面図

■おわりに ～この地で生きる～

橋北地区の「高齢化率」は、40%を超え、独居老人世帯も15%以上にもなっている。また、空き家の数は、H27年の調査によると122棟にのぼる。

「高齢化」・「独居老人の増加」・「空き家」と、この地区の抱える問題は、数字を見る限り、未来に希望を見出せない、「消滅の恐れのある地域」に見える。

しかし、ここには「春草公園を造ろう」と自分らで募金を集め、行政を動かした「老人力」がある。

夜遅くまでのデザイン画の「共同作業」を通して、ここに生きる人々の、情熱「まち」への誇りと、愛情を強く感じた。

10年後リニア新幹線がこの地を通る。多くの期待がリニアに寄せられている。しかし、リニアが地域を活性化させるのではない。大きな力に頼らない地道な活動、ここに生きる人々の情熱「まち」への誇りと愛情こそが、地域を活性化する原動力であると思う。

いつの日かこの春草生誕の地に、この『歴史を刻む ミュージアム』が建設され、橋北地区に暮らす人々の「誇り・インボル」となり、地域活性化の原動力となることを希望する。

